

2014年11月 特別賞

「ぎんれい」は、もうすぐそのミッションを終えます。

今年2月、世界初のLED長距離可視光通信実験を目的に、宇宙へ飛び立った信州初の超小型衛星ShindaSa(愛称:ぎんれい)は、もうすぐ大気圏に再突入し、燃え尽きて、そのミッションを終えます。

日-Aロケット相乗りで一緒に打ち上げられた衛星が、期にすべて消滅している中で、これまで「ぎんれい」はよく頑張りを、しっかりと宇宙を稼いでくれたと思います。

一半年の愛称募集では4000件以上の応募をいただき、今年10月末からは、栄科や伊那市で子供たちを集まってもいい、地上からの通信実験観測会も催すことができました。本町に多くの方々の研究費と応援をいただきました。

「信州初の人工衛星を信大から」構想から今日まで4年半、信州の高度なものづくり技術とエンジニアの情熱の結晶とも言える産学連携の「ぎんれい」プロジェクトはこれで終了いたしますが、宇宙への新しい事が続いていくことを期待して止みません。

開発・製造、そして運用支援に携わった関係者一同、応援いただいた多くの皆様へ、心から御礼申し上げます。「ぎんれい」への応援、誠にありがとうございました。

宇宙への夢よ、続け。

2014年11月17日付 15段

国立大学法人 信州大学 [制作 信州大学 広報室]